

健康通信

周術期口腔機能管理について



歯科口腔外科医長

岡本 康宏

平成24年度から「がん対策基本法」等により、周術期口腔機能管理が新設され医療保険制度に導入されました。
周術期口腔機能管理ってなに？

周術期口腔機能管理とは、各科の担当医と歯科医師が連携して、患者さんの入院、手術前から退院後を含めた一連の口腔のチェックとケア（口腔機能管理）を実施することにより、手術前のお口のトラブルや手術後に起こり得る肺炎や感染症など、お口に関連した術後合併症の予防を行うものです。また、化学療法や放射線治療を行う場合、口腔粘膜炎や感染症に対するがん治療の支持療法と位置づけ、治療の向上を目指すものです。口腔機能管理を行うことで肺炎のリスク軽減や口腔粘膜炎の発症を抑制することにより、食物をお口から食べて栄養を摂ること

を可能にし、全身状態の回復を高めることでQOL（生活の質）の維持向上にも寄与します。当院では口腔機能管理が重要と判断された患者さんに対して、全身麻酔の手術前より、厳密な口腔機能管理を行っております。

かかりつけ歯科（歯科医療機関）との連携が大切です。

超高齢社会の進展にともない、途切れない口腔機能管理を提供するためには、入院前や退院後における「かかりつけ歯科」との医療連携により、健康なお口の状態が維持できます。

日ごろから、お口の状態も忘れずにチェックしましょう。

お口を比較的清潔に保っている健常者の歯の表面には、1本あたり1,000〜10万個の微生物が、口腔清掃不良者の歯

の表面には1本あたり1〜10億個の微生物が生息しているとされています。また、プラーク（歯垢・生きた微生物のかたまり）1mmあたり1億個の微生物を含んでいます。また、歯石が形成された箇所にはプラークが付着しやすいので、歯周炎が進行しやすく、定期的な除去が必要です。

お口は栄養の入口であると同時に、細菌（主に歯周病原菌）の入口でもあるため、炎症が起こると歯周の血管から全身相互に影響を起すと考えられています。中でも誤嚥性肺炎、敗血症、糖尿病、心臓血管障害（脳梗塞、心筋梗塞、心内膜炎）、妊娠・出産（早産）、がんのリスク上昇などが挙げられます。お口の健康は全身の健康にもつながることから、健康で質の高い豊かな生活を営むためにも生涯を通じて口腔機能管理がとて大切で、これからの病院の理念のもと、更な

周術期口腔機能管理で口腔合併症の緩和



問合先 市民病院 (☎76・4131)

information

職員募集の

お知らせ

市民病院職員

◆臨床心理士

対象 昭和58年4月2日以降に生れた方で平成30年3月臨床心理士資格取得見込者または資格取得者

◆作業療法士

対象 平成元年4月2日以降に生れた方で平成30年3月作業療法士資格取得見込者または資格取得者

勤務開始日 平成30年4月2日(月)

人員 各1人程度

申込み 各11月29日(水)（必着）までに、履歴書（写真貼付）、卒業証明書または卒業見込証明書、資格免許証の写し（有資格者のみ）を郵送または直接病院総務課（〒485-8520 住所不要）

■試験

1次試験
とき 12月9日(土)午前8時30分〜
ところ 市民病院8階大会議室
内容 教養試験、専門試験、適性検査、作文

※1月中旬に2次試験として面接あり